

# 平成25年度 佐渡市外国語活動部 活動報告

部長 松田 健太

## 1 研究主題

児童の「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するための授業展開はどうあればよいか。

## 2 研究の概要

上記主題のために、以下の2点を重視した授業を佐渡市立行谷小学校小片教諭より提案してもらい、指導案検討会や授業研究会で検討、協議し、その有効性を探った。

- ① 相手に伝えたい内容や伝えるための工夫を児童に考えさせ、そのために必要な聞く活動や話す活動を段階的に設定する。
- ② 児童から既習の英語表現を引き出すために、説明の必要な場面を設定する。

## 3 研究の実際

授業研究会・伝達講習会

- ① 期 日 平成25年11月26日(水)
- ② 会 場 佐渡市立行谷小学校 フリールーム
- ③ 授業者 佐渡市立行谷小学校 小片 美佳 教諭
- ④ 内 容 第3・4学年 “伝えよう日本のこと、行谷のこと”
- ⑤ 授業の実際

本時では、佐渡市のALT8人を招聘して授業を行った。単元の始めに、総合的な学習の時間で学んだ事柄について、「何を」「どのように」伝えたいかを考えさせた。そして、前時までに指導教諭やALTの力を借りながら行谷小学校クイズや「トキ」の英語劇を創作し練習を行った。さらに、事前にビデオレターのやりとりを行ってALTと交流し、発表への意欲を高めた。本時では、一人一人が練習した英語表現やジェスチャーを使いながら、英語を使って紹介することができた。

次に、ALTに「けん玉」「お手玉」など、日本の遊びについて“I can play～”の表現を使って紹介したり、“Let’s play～”の表現を使って一緒に遊んだりする活動を行った。昔の遊びについては、生活科で学習し、慣れ親しんだ内容であるため、児童は自信をもって活動に臨むことができた。また、遊び道具を介してのやりとりは具体的で分かりやすく、3・4年生でも容易に遊び方を伝えることができた。



## 4 成果

本研究は、研究授業における以下の児童の姿から、有効であったと考える。

- ① 「ALTに紹介する」というゴールを設定したことで、単元を通して主体的に活動に取り組めた児童が全体の100%だった。
- ② 「けん玉」や「こま」など、一見すると遊び方が分からない道具を使ったことで説明の必要感が生まれていた。また、手本を見せたり、手を添えながら説明したりして、相手に伝えるための工夫を考えながらやりとりする姿が見られた。

## 5 課題

高学年で扱う「将来の夢を伝える」「時間割を作成する」といった抽象的な内容において、児童が容易に伝えるための工夫はどうあればよいか、今後、探る必要がある。